



# AMUSEMENT SQUARE stage

ICANOF (イカノフ)、このちよつと魅力的なネーミングがどこかに引掛かっていたのは確かだった。4月24日の朝刊にICANOF主催の「港千尋トークセッション」の記事を見つければ、これは行かねばと会場へ足を運んだ。写真は自分でも興味を持ってのものだし、港さんの著書「熱帯美術館」も以前読んだことがあり、著者紹介のところに写真家とあるけど、写真そのものは見た事がなかったもので、どんな写真を撮るんだろうという興味もあった。

さて当日のトークセッション。港さんが青森と聞いて咄嗟に口をついて出たという「イタコと縄文」の話から始まった。写真家のヴィジョンが、イタコや縄文をメディア・アートやプリミティブ・アートへと連結していく。語り口は理論的なのに同時に感覚的でもあり、とても理解し易く宇宙的な広がりを持っている。

トされデフォルメされ、様々なメディアと結びつき、境界線がぼやけてきている。自分としては、ノーフエクト、ノートリミング、そしてフィルムへの光の定着こそが写真だ、というかたくなな思いがあった。しかし港さんの考える写真というものの範疇の広さに、体の中で眠っていた細胞が叩き起こされた。

曰く「レンズによって光を取り入れたものは全て写真と考えます。そこにはデジタルカメラは勿論、ケータイやパソコンについているカメラ、そしてプリクラまでも含める事ができます」この柔軟さ！「この人は写真というものの可能性を夢見ているんだ」と気づかされた。とは言え、僕は今までの自分の考えは、写真へのロマンティックな思いとして持ち続けたい。とにかくこの夜は、超魚眼レンズで視界を広げられた気がする。

その後、ICANOFのキュレーター(企画構想者)である豊島さんと会い、いろいろと話を伺うことができた。豊島さんとは面識がなかったが、噂には聞いていて、前衛的で難解な理論家というイメージを持っていた。実際に会



▲港千尋トーク(長横町ジャミン)

## 演劇空間スペースベン

### 君がICANOFに入って、 ムリな事してみないか?

〈文/山内雅一(トランス・アーティスト)〉

って話をしてみると、DJ、トランス、RAVE、ストリートアートなどのカウンターカルチャーに非常に興味を持っていて、「タイムラグ・ラグタイム展」でもその辺の構想を実現させたいらしい、ということが僕にも理解できた。「そうか、豊島さんも港さんみたい、可能性の扉を広げているんだ」。そして、自分も同じようなことを考えているんじゃないか。この人となら何か面白いことができそう。

さあ、2001年秋、八戸にトランス・カルチャーの爆発を起そう。ICANOF—またの名を「TRANS CULTURE MEDIA CIRCUIT」。

有志の参加を待つ、この有機的

運動体。

ICANOF(イカノフ)は、写真とメディア・アートを求心力として、八戸をもっと魅力的な街にしよう、というボランティアの

サポート・チーム/プロジェクト。ト・チームです。随時、新しいメンバーの参加を求めています。写真ワークショップのエントリーも受けつけています。

問い合わせ&詳細/ICANOF事務局  
0178-4519247  
http://homepage2.nifty.com/icanof/

### イカノフ・パイロット・プロジェクト第一弾 写真によるMEDIA ART SHOW 「タイムラグ・ラグタイム展」

写真に潜在するTIMELAG(遅れ)を、痛快な時間感覚(RAGTIME)として顕在化しよう、というユニークな美術展です。

■日程/2001年9月21日(金)~30日(日) 計10日間

■会場/八戸市美術館(十国内外各地オンライン)

■招待アーティスト/

金村修(写真家・土門拳賞)、吉増剛造(詩人・芸術選奨)、港千尋(写真家・サントリー学芸賞)、野村喜和夫(詩人・高見順賞)、キム・ヌリ(ビデオ・アーティスト)、シルバ・グプタ(ネット・アーティスト)、キム・ヨンフェ(写真家)、レ・キキ(写真家)ほか。

■内容/

- (1)写真とパソコンを用いたインタラクティブなアート 招待アーティストによる「CD-ROMアート」など
- (2)場所と嗅覚を発掘する写真フィールドワーク 招待アーティストによる「写真ワークショップ」など
- (3)写真とセンサーを用いたインスタレーション

◆写真家金村修(土門拳賞)と一緒に、八戸の街で写真によるスタンブラリーに挑戦してみよう。

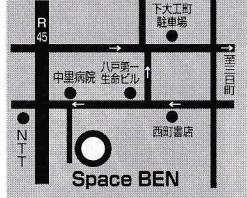
◆詩人吉増剛造(芸術選奨)と一緒に、銅板を打ちながら、ポラロイド写真で応答してみよう。

※カメラを持ってない人もプリクラしか知らない人も大歓迎。

### 6月のFriday Amusement Negative Shop

- 6月1日(383回) 未定
- 6月8日(384回) 未定
- 6月15日(385回) 未定
- 6月22日(386回) 未定
- 6月29日(387回) 未定

\*全て午後7時30分~、料金500円  
チケットはスペースベンにて販売



駐車場はございませんので、車のご来場はご遠慮下さい。  
(近くに西町書店駐車場有り)

□ スペースベン  
八戸市柏崎1-11-8  
☎&FAX 43-9876

※スペースベンの上演内容は、ホームページまたはメールアドレスで確認下さい。

FANSでは、脚本を広く募集しています。何か表現したくても踏み出せないあなた、一度「物語」を書いてみませんか? FANSでは、そんな方の思いを大切に舞台にのせてみたいと思っています。

☎ スペースベンHPアドレス <http://www.htv-net.ne.jp/~fans/>  
Eメールアドレス [bunkakk8@hi-net.ne.jp](mailto:bunkakk8@hi-net.ne.jp)